2.「女医」ならではの強みや価値とは？

I haven't been worried about my image so much as I have been trying to find projects to push myself further than before.

—— *Cameron Diaz*（*1972* 年～）

つねに成長につながる仕事をさがす努力をしてきたわ．自分のイメージは気にしなかった．

本音トーク 1 高齢内科入院患者の予後は女医が担当したほうがよい!?

アメリカの医師数のうち，女医の占める率はここ 50 年で急速に増加しました．**Association of American Medical Colleges（AAMC）**によれば，1965 年には医学部入学者のわずか 10％を占める程度であった女性の割合が，2017 年に初めて 50％を超えました[1]．現在，現役医師の 3 分の 1 を女医が占めますが，女医の割合は今後も増えていくでしょう．そんな中，2017 年に『JAMA（Journal of the American Medical Association）Internal Medicine』に発表された，ハーバード大学（現 UCLA 助教授）の**津川先生等による論文**が世界的に注目を集め，多くのメディアで報道されました[2]．

この研究を要約すると，内科疾患で入院した 65 歳以上の患者を対象に，担当医の性別と予後の関係を調べたところ，女性内科医が担当した患者のほうが男性内科医の患者よりも

30 日死亡率と再入院率が有意に低かった

というものでした．患者，医師，病院の特性を調整したあとの 30 日死亡率は，男性医師で 11.49％に対し女性医師で 11.07％，30 日間の再入院率は男性医師で 15.57％に対し女性医師で 15.02％でした．これらの数字自体をみると，この差は